

新年挨拶



国土交通省
中部地方整備局長
八 鍬 隆

平成26年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日本道路建設業協会の皆様におかれましては、平素より国土交通行政の推進に格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、台風18号による近畿地方の豪雨災害や台風26号による伊豆大島の土砂災害、中部地方では浜松市天竜区春野町の地すべりや静岡県西伊豆町の豪雨災害など、改めて大規模災害の脅威を認識する事象が多く発生し、緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)による多くの支援活動も行いました。被災された皆様の日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

他方、命・絆・元気の道である熊野尾鷲道路の開通や名古屋都市圏の発展とともに歩んできた名古屋高速道路の全線開通など、防災・観光・交流をはじめとする多様な面で大きなインパクトがありました。また、富士山世界文化遺産登録や伊勢神宮式年遷宮の年でもあり、中部地方における大きな節目の年となりました。

これらの自然的、社会的な状況を踏まえ、中部地方整備局では、社会資本整備を通じて、地域の安全・安心の確保、及び地域の持続的発展を支えるため、次の3つの柱を重点的に取り組み、展開していきたいと考えております。

一点目は、「安全・安心な地域づくりの推進」です。

南海トラフ巨大地震による死者は最大約32万人、被害額は全国で約220兆円と想定されております。この差し迫る巨大地震や大規模水害に備えるため、公共施設の耐震化や予防的治水対策、土砂災害対策、代替性の確保のための道路ネットワーク整備など、これまで進めてきた重要施策に加え、123機関が連携する「東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議」において策定した「中部圏地震防災基本戦略」を推進するとともに、南海トラフ巨大地震対策計画中間とりまとめの地方計画を策定し、関係機関との連携・協力のもと巨大地震に備えていきたいと考えております。

また、公共施設の老朽化・長寿命化対策として、定期的

な点検に基づき、計画的かつ効率的な補修を進める予防保全への転換を図ってまいります。

二点目は、「持続可能で活力ある地域づくりの推進」です。

製造品出荷額が全国の4分の1を占める「ものづくり中部」を持続的・発展的に支える陸・海・空の社会資本整備については、叡智を結集し、戦略的に推進していく必要があります。具体的には、道路や空港・港湾など効率的な物流ネットワークの強化、港湾の国際海上コンテナターミナル及び国際物流ターミナルの整備、新東名・名神高速道路やリニア中央新幹線の大規模プロジェクトを見据えた地域づくりなどを中心に、ハードとソフトを総動員し、一層の充実・強化に向けた取り組みを進めてまいります。

三点目は、「建設産業の再生と発展」です。

建設産業の再生と発展のためには、地域を支え得る足腰の強い建設産業の構築が必要と認識しており、技能労働者への適切な賃金水準確保や社会保険等未加入対策を推進しております。合わせて、若年者の入職促進に軸足を置いた広報戦略と入職に向けた効果的かつ具体的な取り組みを進めていくため、中部圏の各建設業協会等が主体となり設置されました「中部圏建設広報ネットワーク協議会」を中部地方整備局は支援してまいります。

また、災害対応をはじめとする建設分野の任務に関する情報発信の充実・強化を図るなど、より一層、迅速でわかりやすく多様な情報発信に取り組んでまいります。

今年、新東名高速道路愛知県区間の開通やリニア中央新幹線の着工が顕在化する年でございます。このような大規模プロジェクトとの連携も含め、地域の皆様とともに、中部地方を盛り上げていくお役に立てればと考えております。

私といたしましては、国民の皆様、安全・安心の確保と、地域の持続的発展に資する取り組みを推進していくためには、国の機関はもとより、地元自治体、経済界、学界、民間企業の皆様、とりわけ地域を支える建設産業界の皆様との連携・協力が必要不可欠と考えております。重ねてご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年の干支の「午(馬)」は、旺盛な生命力を象徴する動物で財運を招き事業運を高めるとされております。日本道路建設業協会の皆様にとって、幸多き年であることを心より祈念し、年頭のご挨拶といたします。